

自然と心の豊かな故郷 湯田学区

# 広報ふくら

第3号  
平成22年3月  
編集発行  
湯田学区地域  
づくり協議会  
発行責任者  
饗場真司  
連絡先  
湯田公民館  
電話 74-1438

## 住民アンケート報告 ご協力有難うございました

昨年三月に湯田学区地域づくり協議会が立ちあげられ、その後区民の皆様には物心両面からご支援をいただき今日に至りましたことを衷心よりお礼を申し上げます。

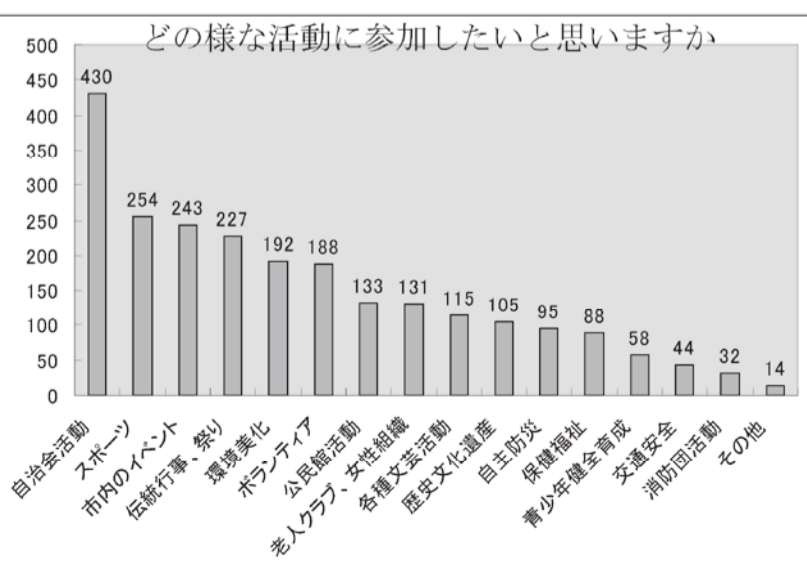
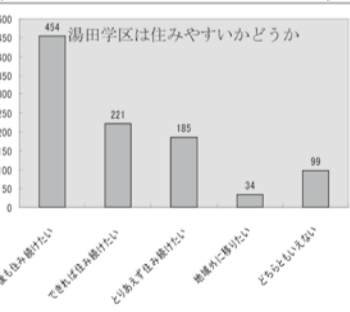
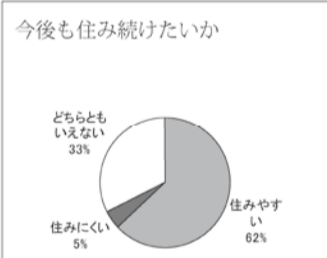
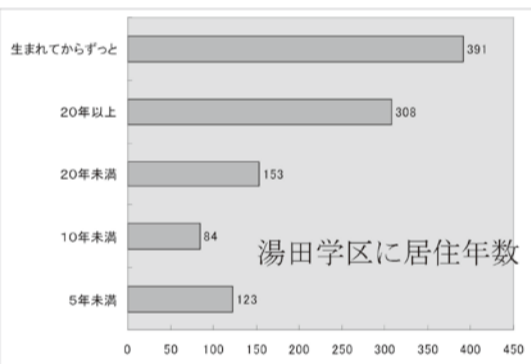
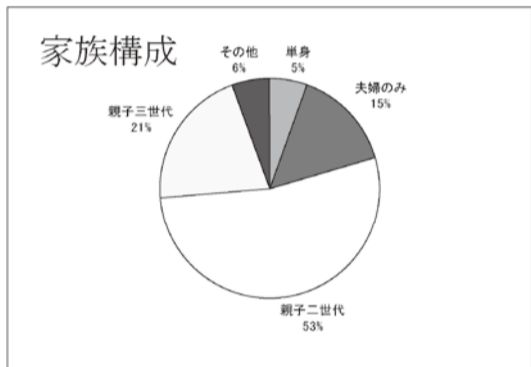
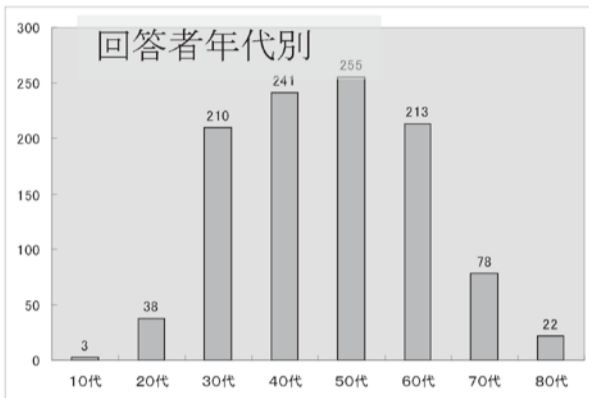
ご承知のように本地域づくり協議会は市内に十三地区ある中で十一番目に立ち上げられましたので、結成後は他地区協議会の活動状況を参考にしながら暗中模索で活動を続けてきました。運営委員会協議の中で確認してきましたのは、今までに先輩諸氏が築かれてきた湯田学区の伝統ある活動を生かして、時代のニーズに沿った新たな活動を創造していくことでした。しかしな

がら、時代の急激な変化に当地域が対応しきれていないという現状認識と、住民の意見を反映した地域づくり計画の策定が大事ではないかという意見もあり、昨年に各町自治会役員のご協力を得ながら住民アンケートを実施致しました。その結果71%という高率の回答率を得ることができましたことは、住民の皆さんの地域づくりへの高い関心のあらわれではないかと思っております。改めましてアンケートへのご協力に感謝とお礼を申し上げます。以下はこのアンケートの結果について協議会として分析したものをまとめたものです。

分析責任者 清水利展(評議員長)

### ○高齢、核家族化の進行

まず家族構成では親子三世代同居の比率が21%でした。一方、親子二世代、夫婦のみとの回答比率が高く、核家族化が進行していることが分かりました。この背景には新興団地の増加と若者の地域離れにより老夫婦および独居老人の増加が認められます。一部の集落にも地域の高齢化、過疎化という問題が深刻に表れてきたといえます。



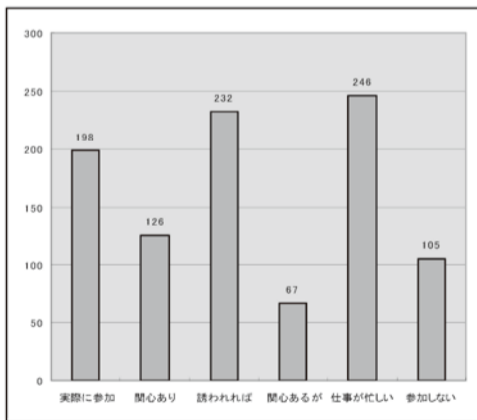
### ○定住志向は7割

住みやすさでは住みにくいと答えられたのが5%でした。一方62%が住みやすいと回答されました。今後の定住意向については住み続けたい、出来れば住み続けたいと回答されたのが68%でした。これは平成十八年度の長浜市の調査での湯田学区の回答53・5%と比べるとはるかに高い数字です。その理由では災害が少なく、自然豊かで、歴史の古い土地柄という回答が多く、一方では旧態依然として生活改善が進まず、地域間のパイプが細くなったという指摘もありました。

### ○安心、安全の地域づくりを

今後地域づくりで取り組む重要度として考えておられることは救急医療体制の確立がトップで、防災対策、道路整備除雪、子育て支援、福祉サービスという順になりました。子どもの遊び場の確保やゴミ問題、環境保護活動への関心も目立ちます。今後の地域づくり活動に対する大事な意見がいただけたと思っています。

### 活動への参加意欲



地域づくりへの参加意欲度については、実際に今参加していると答えた人を含めて関心あり、誘われればと肯定的に答えた人が57%でした。希望する活動内容については各町の自治会活動を優先に考えておられるのは当然として、スポーツやイベント、伝統行事などを通して地域全体の交流に高い関心があるように思われます。環境美化やボランティア、公民館活動にも意欲が示されました。

### ○地域交流に関心

### ○伝統を生かしつつ改革

自由記入欄の部分にも多くの意見が寄せられました。これについては二面に各部会の活動に仕分けをして詳しくまとめましたのでご覧ください。筆記によるご意見から、先祖が残された遺産を護りつつ、生れ育ち、住み慣れた自然豊かな土地に対する愛着心を多くの人が抱いておられることがよく分かりました。一方では古い行事や慣習の改革や交通の不便さに対する指摘がありました。特に高齢者や障害者の買い物や医療機関への通院の足の確保が多くの方々から指摘されました。

今後さらにこのアンケート結果を深く分析して、住民の皆さんのご要望を仕分けし、各専門部に適切に取り入れて、出来るものは一年目から、長期的には三〜五年計画で湯田学区地域づくり計画を策定し、その後はこの計画に基づき地道な地域づくり活動を展開してゆきたいと考えています。

# 「自由な意見」の集約

アンケートに三カ所のご意見を書きこんでいただき「自由意見欄」がありました。ここに多くのご意見が集まりましたのでご紹介します。今後の地域づくり活動に對しての課題も明らかになりました。お寄せいただいた意見は下記のように地域づくり協議会の関係する五つの部会に分けてまとめました。

## 総務広報部会の活動に関する意見

### ① どのような地域づくりを目指すかという点では、住民自らが夢を持って立ちあがるような仲間づくりを大切にす町、若者から高齢者まで住みやすく、人にやさしい町、物を大切に、命の有難さを感じられる町、名所旧跡を生かし、緑が多くハリヨが住めるような清らかな河川の町という意見でした。

② 具体的な活動として提起されたのは、各町が交流できるイベント、学区全体のコミュニケーションを図るイベント、若い若きも気楽に、平等に参加できる行事計画と仕組みづくり、空き家や古民家を安く借りられるシステムの考案、旧集落と新興住宅地の交流計画、交通アクセスの整備、三世代同居の勧めと意見交換会、家族会での交流など、中には大変ユニークな提案もありました。

③ 広報活動については、事業促進とコミュニケーションを図る上で大変重要という意見が多く、内容も分かりやすく、いつ、どこで、何をやるかという宣伝と、関心があっても参加できなかった人のために、行った結果を広報で報告せよという要望がありました。

## 健康福祉部会の活動に関する意見

### ④ 解決すべき新しい取り組みとしては、ごみ出しマナーの悪い人への対処、若者に対する婚活支援、後継者が無い家庭や独居老人への地域ぐるみの支援と手だて。新しい住民にとっては公民館に馴染みがないので気軽に立ち寄れる機会をつくれという意見がありました。

① 高齢者にやさしい町づくりの推進という意見が多かったのは当然として、高齢者の課題は、近隣の人々の協力と民生委員をはじめ自治会役員の支援です。買い物や通院できるように交通の便を良くしてほしい、老人ホームなどの福祉施設を新設してほしい、大雪が心配、物心両面の安心の地域づくりを望むなどの切実な意見と要望がありました。

② 一方、今後進める課題としては、病気になるない日ごろの健康づくりの推進、そのための食生活の見直しや調理実習会の企画、老人から子供までが楽しめるスポーツ事業の推進、草野川堤防とウォーキングコースの設置、集落間を結ぶ安全な里道と、森の散歩道を整備してほしいなどの要望がありました。

## 安全環境部会の活動に関する意見

### 安心安全の町づくりに対して日ごろの備えと不意の大災害に対する防災計画について多くの指摘をいただきました。協議の結果、部会としては防災（消防、自警団を中心とする活動）と防犯（子どもの安全などを中心とする活動）と環境保護という三つに分かれた活動の推進が図られています。

① 防災面では地域ぐるみの防災対策、防災マップの策定、少なくとも年一回の防災訓練と各自治会の防災規約の策定の必要性について多くの意見が寄せられました。

② 防犯については子どもの見守り活動とボール遊びが出来る公園の整備、小学校運動場の開放、また街灯の増設や歩道の設置、大型トラックの出入りや団地内の車の通り抜けやサルなどの有害獣の防止対策、降雪時の三六五号線除雪対策なども指摘されました。

③ 環境保護についてはゴミのポイ捨て、粗大ゴミの不法投棄、犬の糞の放置などモラルに関する指摘がありました。環境問題は自然環境だけでなく良好な生活環境の構築も大事です。特に住民同士の笑顔やあいさつのとびかう地域づくりに関しての指摘もありました。

## 教育・文化・体育部会の活動に関する意見

① 教育については子どもの安全を守っていく防犯との関係もありますが、地域づくり活動には湯田学区の将来を担ってくれる子どもを地域で育てるという役割があります。具体的には地域が子ども達に行う体験学習や先輩の話、子供会活動の活発化、また親のエゴや非常識が子どもに受け継がれており、他人の子供でも社会的なモラルをしっかりと教えること、共働き家庭で子供の面倒が十分見られない家庭を地域社会で支援していくことなどの貴重な意見もありました。

② 文化面については仕事の関係でなかなか近隣の人と話し合う機会がない、各種の文化講座に参加したいが旧長浜中心で受講が困難などの問題点の指摘

がありました。また、夜間開催のサークル活動の企画、伝統芸能や文化の継承、歴史学習など公民館を活用した勉強会の実施が要望として出されました。一方で婦人会活動の見直しや法事など宗教行事の簡素化、生活改善などを検討する意見もありました。

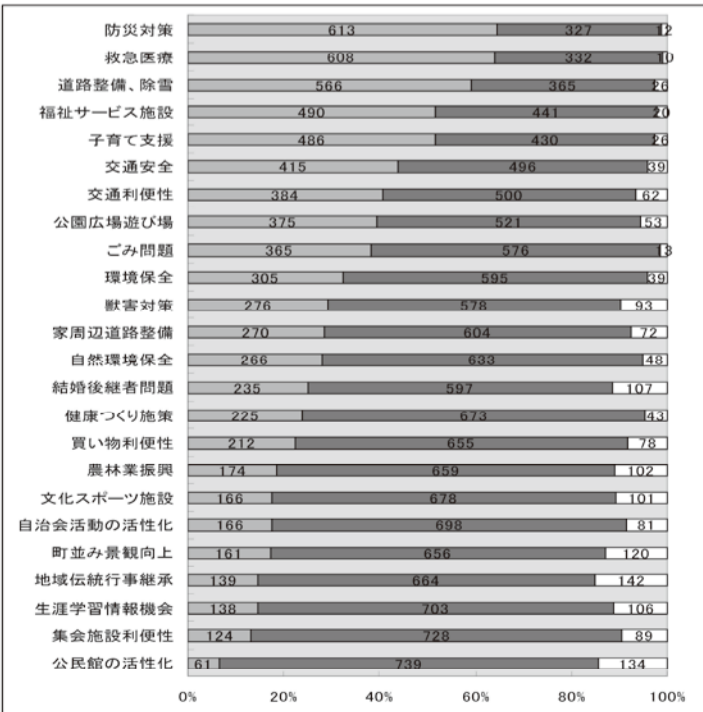
③ スポーツに対しては区民運動会の開催やソフトボールやボーリング、グラウンドゴルフ大会および体育館を使用したソフトバレー大会の企画を望む声も出されました。

## 地域振興部会の活動に関する意見

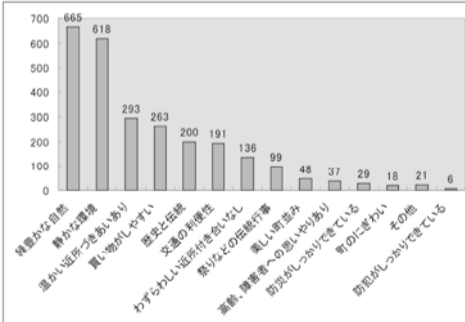
### 湯田学区は旧浅井町を中心であり、町政時代からの貴重な資産を多く抱えています。それを生かし、活用し、人を呼び寄せて過疎化に對処し、若者の流出を食い止めるために働く場を確保し、地域の誇りとしての伝統を守り、地産地消による農業の振興と食の安全、商業の活性化を図ることが住民の共通の願いであり責務といえます。

地域振興部会は地域の将来にかかわる活動であり、その多くは行政の力に待つべきものです。しかし今は、財政難に苦しむ行政が、ただ待つだけでは何も解決してはくれないという時代でもあります。このような行政を動かす力は、地域住民の英知と熱意で地域活性化の下地を作り、住民の声を吸い上げ、住民

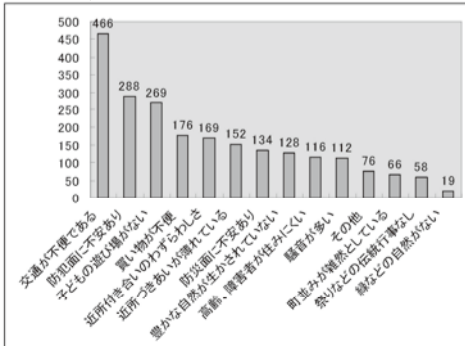
地域づくりで取り組むべき課題の重要度について



湯田学区の良いところ



湯田学区の悪いところ



の団結で行政を動かし、夢と希望を実現させる活動です。

住民の意見では、地域づくりに生かすために湯田学区が誇れるものは何かを地域に英知を活用して探さなければならず、人口が増え、人が集まる地域づくりを優先せよという意見もありました。また、NHK大河ドラマ「江」の決定に対するチャンスを生かすべき、「浅井ふれあいの里」の活用についての指摘もありました。強い要望として公共交通の充実があり、他に企業誘致、近くにスーパーを、シルバークワールの活用などがありました。